

気象観測施設に関する
調査表記入マニュアル

〔E110〕 気象観測基本

この調査表は、気象観測施設に関する基本的データを登録するためのものである。他省庁の気象観測施設に関しても登録の対象とする。（直轄指定管理区間調査より）

1. 一般的注意事項

(1) データは次の単位で作成する。

- 路線毎とする。
- 気象観測施設内における装置種別毎とする。 注)

注) 気象観測施設が直轄国道沿いになく、離れた場所に設置されている場合、(Q)、(R) 距離標の記入にあたっては、対象路線の起点または終点の距離標などを記入する等、担当部署との協議の上でデータの作成を行う。この場合、備考等を利用しコメントを残すようにする。

(2) 気象観測施設に関する写真・図面類については「E111気象観測図面類」にて作成する。

(3) 気象観測施設に関する補修履歴については「E112気象観測補修歴」にて作成する。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2
- (J) 整理番号3
- (N) 補助番号

区 分	コード
上下線共通	0
上り線	1
下り線	2

(Z) 所在地

該当する気象観測施設の設置位置の所在地（字番地まで）について、30文字以内の日本語で記入する。

(AA) 設置箇所C

設置箇所について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
歩道内	11	横断歩道橋上	17
中央分離帯内	12	トンネル内	18
路端（道路端）	13	自動車駐車場	19
交通島内	14	休憩施設	20
橋梁上	15	チェーン着脱場	21
高架上	16	その他	99

(AC) 装置種別C：◆

装置種別について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
雨		視程	
雨量計	11	透過率計	41
降雨強度計	12	風	
雪		風向、風速計	51
降雪計	21	吹き流し	52
積雪深計	22	波	
路面凍結		波浪計	61
気温計	31	その他	99
路温計	32		
路面水分計	33		
降水検知器	34		
湿度計	35		
路面凍結計（記録可）	36		
路面凍結計（記録不可）	37		

(AE) 凍結予知表示板有無C：◆

凍結予知表示板の有無について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
無 し	0
有 り	1

(AG) 型式

各装置の形式（メーカー及び型番）について、20文字以内のカタカナ、英数字で記入する。

(AH) データ転送先

観測データの転送先について、15文字以内の日本語で記入する。

(AI) 通信回線区分C：◆

通信回線について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
建設省専用	1
N T T	2
そ の 他	9

(AK) 自管理他省庁区分C：◆

気象観測施設の管理について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
自 管 理	1
他 省 庁	2

(AM) 電力契約種別C

契約種別について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
定額電灯	1
従量電灯 A	2
B	3
C	4
公衆街路灯 A	5
B	6
C	7
業務用電力	8
融雪電力	A
低圧電力	B
その他	9

注1)

注2)

注1) 関西、中国及び四国電力株式会社では従量電灯のAとBを合せてAとし、沖縄電力株式会社では従量電灯のA、BおよびCの区分はない。

注2) 北海道、東北、東京、北陸、中部、九州及び沖縄電力株式会社では公衆街路灯のBとCを合せてBとする。

(AO) 電力契約番号

電力の契約番号を、20文字以内の数字で記入する。

(AQ) 電力支払営業所名

使用電力料を支払っている電力会社名及び営業所名を、15文字以内の日本語で記入する。

(AR) 製造年月

気象観測施設内における装置の製造年月を記入する。(年は西暦年で記入)

(記入例) 1985年10月 ——> 198510

(AS) 備考

特記事項があれば50文字以内の日本語で記入する。

(AT) 市区町村C : ◆

該当する区間の市区町村名のコードを記入する。使用するコードは「全国市町村要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。

(記入例) 茨城県鹿島郡旭村の場合 ——> コード: 08401
(検査数字は含まない)

〔E 1 1 2〕 気 象 観 測 補 修 歴

この調査表は、気象観測施設の補修履歴等に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「E110気象観測基本」の作成単位とする。
- 補修が行われた毎とする。

2. 記入事項

(1) 工事番号

(2) 工事区分C

(3) 施設対応番号

(C) 地整C

(D) 事務所C

(E) 出張所C

(F) 路線

(G) 現旧区分C

(G-1) 現旧区分

(H) 整理番号1

(I) 整理番号2

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

(P) 補修年月

補修を行った年月を記入する。(年は西暦年で記入)

(記入例) 1985年10月 ——> 198510

(Q) 補修内容C

補修内容について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
雨量計 修復	1 1	温度計 修復	2 5
取替え	1 2	取替え	2 6
降雨強度計 修復	1 3	透過率計 修復	2 7
取替え	1 4	取替え	2 8
降雪計 修復	1 5	風向, 風速計修復	2 9
取替え	1 6	取替え	3 0
気温計 修復	1 7	吹き流し 修復	3 1
取替え	1 8	取替え	3 2
路温計 修復	1 9	波浪計 修復	3 3
取替え	2 0	取替え	3 4
路面水分計 修復	2 1	転送部分 修復	3 5
取替え	2 2	取替え	3 6
降水検知計 修復	2 3	記録器 修復	3 7
取替え	2 4	取替え	3 8
		その他	9 9

(S) 備考

損傷原因等について50文字以内の日本語で記入する。

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

E110：気象観測（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999		○	○
現旧区分C	半角1文字		○	○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
名称	全角10文字			○
百米標	999.9	k m	○	○
距離	9999	m	○	○
施設完成年度	999	和暦		○
施設改修年度	999	和暦		○
完成年月	199901	西暦		○
上り下り区分C	半角1文字			○
所在地	全角30文字			○
設置箇所C	半角2文字			○
装置種別C	半角2文字		○	○
凍結予知表示板有無C	半角1文字		○	○
型式	文字40文字			○
データ転送先	全角15文字			○
通信回線区分C	半角1文字		○	○
自管理他省庁区分C	半角1文字		○	○
電力契約種別C	半角1文字			○
電力契約番号	半角20文字			○
電力支払営業所名	全角15文字			○
製造年月	199901	西暦		○
備考	全角50文字			○
市区町村C	半角5文字		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

E112：気象観測（補修歴）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字			○
整理番号2	半角4文字			○
補修年月	199901	西暦		○
補修内容C	半角2文字			○
備考	全角50文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照